

名経大通信

第2号

2002年2月22日

名古屋経済大学

ホームページ

<http://www.nagoya-ku.ac.jp/>

CONTENTS

- p1.2 TOP NEWS
百周年を前に総合学園へ大変革
- p3.4 Lecture
中坊公平さん感動の2時間
「現代日本を考えるー私の現場からー」
- p5 Annual events
第14回双六祭にぎわう
- p6 Local
市長の講演/2001犬山オープンカレッジ
- p7 Global
ベトナムに次ぎ中国とも学術協定
- p8 卒業生インタビュー
インターンシップの奨め
- p9 文部科学省が本学を視察
財務状況公開
- p10 Club Seminar
タッチラグビー部遠征/スキー部
中国語スピーチコンテスト
- p11 Books&Author
新刊紹介 催事報告



中・高・短大の校名をそろえ、すべて男女共学制へ

名実ともに充実した総合学園として四月スタート



と男女共学制の徹底に踏み切りま
す。

関連して、経営学部経営学科の
誕生（三学部体制）名古屋経済大
学短期大学の誕生（市邨学園短
大から改名）大学院会計学研究科
の誕生（研究科としては二つ目）
などの組織改革が決まりました。

新体制のあらましは新聞などを
通じて広報されていますが、ここ
にまとめて紹介します。

校名変更と男女共学

市邨学園短期大学 名古屋経済大
学短期大学部
市邨学園高等学校・中学校 名古
屋経済大学市邨高等学校・中学校
高蔵高等学校・中学校 名古屋経
済大学高蔵高等学校・中学校

大山市と名古屋を拠点に伸展
してきた系列の全学校が互いに連
携を深めるとともに、名古屋経済
大学の名で統一することで地域に
溶け込み、なじんでもらいたいと
の思いがこめられています。

短大、高校、中学は伝統的に女
子のみ入学を受け入れてきました

が、校名変更に伴い四月から一斉
に男女共学とします。やはり一貫
教育の向上を目指しての方針転換
で、多彩かつ高度なイメージアッ
プを図ります。

短期大学部に「現代コミ ュニケーション学科」新設

これまでの英語科の教育内容を
改組して新設。時代と社会が求め
ているコミュニケーション能力を
身につける学科です。心理・人間
関係コース、英語・国際コース、
情報・ビジネスコースを履修モデ
ルコースとして考えています。

商経科、生活文化学科、保育科
は従来通り継続します。

大学「経営学部経営学科」 誕生で三学部体制

経済学部経営学科から発展させ
て単独の学部学科となります。ピ
ジネス社会の激しい変化に即応す
るには、幅広い視野と新しい発想
力が求められます。これまでは消
費者・生活者の視点にウエイトを
かけてきましたが、国際化、情報
化社会に見合う体系的な教育課程
に組み替えられます。高校の新教

科となった「情報」の教員免許を
取得する道も開けます。

経済学部消費経済学科を 「現代経済学科」に変更

一九七九年（昭和五十四年）大
学開学と同時に生まれた消費経済
学科では、消費者の視点から経済
を把握・分析できる人材の教育に
努めてきました。近年は受け身の
消費者にとどまらず、主体的な消
費行動を通じて企業や経済を動か
してゆく方向に向かっていきます。

このような現代経済の動向を見据
えた現代経済学科に生まれ変わら
れます。

大学院に会計学研究科（会 計学専攻Ⅱ 修士課程）誕生

中部地区には、「会計学」を主
体とした大学院研究科あるいは類
似の専攻分野を開設している大学
院はありません。全国的にも会計
学の分野の専攻修士課程は未設置
です。高度化、複雑化する企業会
計・企業経営に通じる専門職業人
を送り出すのが目的で、本研究科
専用の図書室、院生自習室などを
用意します。

本学の母体である市邨学園が四年
後の二〇〇六年に創立百周年を迎え
るのに先立ち、本年四月から名古屋
経済大学は名実ともに充実した総合
学園として新たなスタートを切りま
す。時代の転換期に乗り遅れないよ
うに、中学から大学まで幅広い年齢
層が集まる学園の特色を生かし、
連携教育を深める目的で校名一本化



情報の多様化に対応する人材育成を目指して

短期大学に誕生する現代コミュニケーション学科

市邨学園短期大学は、二〇〇二年四月、名古屋経済大学短期大学部と校名を変更し、これにもない、新しく現代コミュニケーション学科を開設することになりました。—コミュニケーション—それは、お互いを伝えあい、理解しあい、心と心を触れあわせることです。その本質は、永遠に変わらないうが国際化や情報化、価値の多様化など私たちを取りまく社会の変化が、コミュニケーションの必要性を増大させています。

現代コミュニケーション学科では、これからの時代に求められる新しいコミュニケーション能力を身につけるために次の三つのコースを用意しています。

履修モデルA 人間関係や人間心理に関するコース

都市化や核家族化、少子高齢化など、ますます複雑化する現代社会の中で、お互いを理解し、信頼しあえる関係を築いていくことは、私たち一人一人にとっても、健全な社会をつくっていくうえでも、

重要なことです。

このコースでは、人間の心理について学ぶことで、コミュニケーションの基本となる人間の理解を深め、豊かな人間関係を築き上げる能力を身につけることを目的としています。広い視野と偏りのない見識により、卒業後は、企業の人事担当、カウンセラーなどへの道が開かれています。また、さらに研究を進めたい学生は、心理学や福祉を学べる4年制大学へ編入することも可能です。

履修モデルB 情報・ビジネスに関するコース

—IT (Information Technology)— は、いまやビジネスの世界では欠くことのできないものとなっています。このコースでは、情報処理などコンピュータによる新しいコミュニケーション能力を身につけ、—IT時代に対応できる人材を育成します。また、経済、経営、法律、マーケティング、プレゼンテーションの技法など現代のビジネスに

求められる多彩な知識も学ぶことになっていきます。—ITへの対応力とビジネスの専門知識を活かし、卒業後は、金融、証券、観光、旅行などの業界への就職が考えられます。

履修モデルC 英語・国際理解に関するコース

英語を自由に使い、異文化を理解する知識や経験があることが、国際人に求められるコミュニケーション能力です。このコースでは、実践的な英語力を養うとともに、幅広い視野を身につけ、国際化時代にふさわしい人材の育成を目指しています。

日々のネイティブスピーカーによる少人数制の講義に加え、異文化体験として、海外研修（共通科目）、海外語学研修（選択科目）も用意しています。卒業後は、英語でのコミュニケーション能力を活かし、さまざまな分野での活躍が期待されます。また、4年制大学への編入も可能です。

「現代日本を考える ー私の現場からー」

中坊公平さん

(元・日本弁護士連合会会長)

笑いあり涙あり



国民的弁護士の中坊公平さんを招いて、昨年十月十三日に名古屋東急ホテルで開かれた名古屋経済大学の公開講演会には千五百人の受講申し込みがあり、中坊さんの人気と期待の高さを改めて知らされました。末岡照章学長のあいさつに始まり、「現代日本を考える私の現場から」と題して一時間三十分、中坊さんの情理に満ちた語り口に満場の人々は引き込まれ、合間に笑いを誘われ、声を詰まらせて話す場面ではハンケチを目に当てる受講者も見られました。四十四年間の弁護士生活を通じて何を考え、どう行動してきたか。中坊さんは自身の生い立ちの中で身につけたことを率直に述べ、「How文化からWhy文化へ切り替えましょう」「着手先行型をやめて理念先行型へ移すときです」「現場主義こそ人の生きる道」と語りかけられました。講演のあらましを紹介します。

How文化からWhy文化へ

バブル崩壊後の混迷と閉塞感の

中で二十一世紀を迎え、そこへアメリカで同時多発テロが発生し、いつそう深刻度を増した。われわれはテロの問題を正面から見据え、考えているだろうか。世界に六十一億人が住み、うち人口が二〇%の先進国で世界の全消費量の八〇%を消費している。最貧困層の人口は三〇%だが、消費率はわずか二%にすぎない。コトが起きたときには理念の基づいて現場を直視し、原因を探ってゆく。あるべき姿を想定し、その現実のため準備し、仲間を呼び集め、見取り図を描く。そして国家であれば公約してかかるということではなければならない。

「How(どうするか?)」「よりも先にWhy(なぜだ?)」と問いかけるのは、あらゆることに言える。現在、私は司法制度改革審議会の委員を務め、「裁判の進行が遅い」などの審議すべき課題が多いが、司法改革はなぜ必要か、国家における司法とは何かということから考えている。「法」は人間の体でいえば血であり、行政という動脈を流れて、心臓

に返ってくるが、社会の血管になり得ていない。法曹三者（裁判官・検察官・弁護士）がなんとなく合意でやってきたが、国民からは愛想をつかされると自覚して、理念先行型で進めねばならない。

幸せはいつでも訪れる

私は虚弱児で、孤独で、劣等感があった。その幼いころ、おふくろがカール・ブッセの「空のあなただの空遠く幸い住むと人のいう」の詩を口ずさみ、ずっと気にかかっていた。十八歳の時、農業の手伝いをしていたが、夫婦と子がりヤカーを引いて家路をたどる姿を見て「そつだ、あれだ」と悟った。おふくろが口ずさんでいた意味を、「幸せ」は身近かなところにあり、それを感じられる人の胸の中にあるのに、われわれはあまりにも収入や健康などの外的条件に追い求めすぎていないか。

東京から京都へ帰るとき、駅弁を買って新幹線に乗り込む。停車中に食べると、ただの弁当だ。発車まで我慢し、列車が滑り出すと蓋をとる。この世で、これくらい幸せなことはないという気分になれる。このように幸せは何回でも訪れる。



「現場主義」こそ人の生きる道

法律事務所を独立した時、依頼客がこなかった。やっと依頼を受けたのは倒産寸前の町工場からで、行ってみると、私が戦争中の学徒動員で働いていた工場と似ていた。十日ほど通ううちに気づいた。従業員たちが仕事をきちんとやらないので不良品が出来て、経営難に陥っている。従業員らにそれを改

めさせ、業績不振に沈み込んでいた土気が奮い立ち、債権者との間の和議もまとまった。私は裁判に負けない弁護士だ。現場に基づいてモノを言い、人を説得し、納得させる。裁判に勝つのが目的でなく、正義とは何か、理念とは何かを学べる。

自分は何のために何ができるか

九月十一日の同時多発テロを予測した人はいない。世の中、先が読めない。腹を決めんといかん。時は人を待ってくれない。否応無しに進まざるを得ない。その際、羅針盤となるのは自分の勤、地下に沈殿している温泉がわき出るような勤である。戦後、日本は他国の物真似をして急成長し、エゴが充満した。自立と自律。自分なりに自分の足で立つ努力をしないとイケない。人のために何が出来るかを考えて立たない限り、日本は滅びてしまう。一人の力では限りがある。「一燈照隅、万燈照国」で国は明るくなる。みなさん一人が、みんなのために何が出来るかを考えてください。

◆ 中坊公平さんの講演会は大学院生の発案によって実現しました。講演のあとの質疑応答で、若い男性から「豊かな半面で心の貧しい社会で育った僕たちに先生のお言葉をいただきたい」と質問があり、中坊さんは「今は自己中心的で、耐えることを知らない。本を読むことすら耐えられない。まず読書です。読書すれば自分以外の人と会える。違う世界を見たり聞いたりすることを大切にしてほしい」と締めくくりのメッセージを残されました。



中坊公平（なかぼう こうへい）
京都府に生まれる。京都大学法学部卒業。1957年に弁護士開業。森永ひ素ミルク中毒被害者弁護団団長、豊田商物産管財人、豊島産業廃棄物事件住民側弁護団団長な職務をつとめる。96年住宅金融債権管理機構社長、99年整理回収機構社長に就任（8月退任）。同年7月司法制度改革審議会委員。84年大阪弁護士会会長、90年から2年間日本弁護士連合会会長を歴任する。

ビッグバン
「ひとりはみんなのために
みんなはひとりのために」

第十四回 双六祭にぎわいました

のために みんなはひとりのために」と決められました。

毎年、南庭園の特設ステージで催されているステージ企画には新たに「和太鼓」と「よさこいソーラン」が加わり、例年になく盛りあがりしました。

二十七日には、名古屋の和太鼓チームである「龍鼓」の賛助出演を得て、「和太鼓」が演奏され、三十分間にわたりキャンパス内に勇壮な太鼓の音が響きわたりました。

二日目には、若者中心の「チーム夜屑」による北海道の盆踊りである「よさこいソーラン」が行われ、元氣一杯の若者による踊りがステージだけでなく、見物人の中まで飛び出す勢い。静かに見ていた人達も浮かれてリズムに合わせて体が動き、なかにはステージに駆け上がって一緒に踊り出した人も見られました。

また、本学の「津梁エイサー」が、両日共、情報センターの前の第二ステージにおいて行われました。黒い衣装に白足袋を履き、赤

いサージをつけた装束に身を包んだ二十三名の部員達により、太鼓を鳴らしての力強い踊りが繰り広げられ、観客から盛んな拍手をあげました。

同部は、県内各地からの出張依頼により、十一月の休日は全て予定が埋まってしまつほどでした。

例年、大学祭の当日に行われているスポーツの競技大会は、今年も種目をフットサルに決めて出場を学内外に募集したところ、“参加費無料、賞品総額二十万円”というPR効果があつたのか出場希望者が殺到し、県内の各大学をはじめ、高校生、社会人のチーム等九十四チーム約八百名となり、出場チーム数の多さでは中部地区最大規模の大会となりました。出場者の三分の二は学外のチームでした。

フットサルとは、バスケットボールに近いルールで行う五人制サッカーです。体育系各クラブに協力を依頼し、審判を務めたフットサル部、サッカー部、バスケットボール部をはじめ、その他のクラ

ブも運営に協力を惜しみませんでした。

大会は、三ブロックに分けてト

ーナメントとし、トーナメント優勝チームによるチャンピオンシップをリーグ戦で行うことにして、初日の試合時間が十分ハーフ、二日目は十五分ハーフの本格的な大会となりました。

結果は、本学のサッカー部が中心となつて結成した「トミタ」チームが優勝し、見事ブロック優勝二万五千元+チャンピオンシップ優勝四万円の商品券を手に入れました。

この大会を実施したために、両日とも試合の待ち時間に模擬店や展示を巡り、例年より入場が増え、各模擬店の売上も増加しました。

展示等は、十九団体で、合同展示もありました。学生自治会が実施しました犬山特産品の展示と即売は、今年初めての催しであり、明年以降も拡大してゆこうと早くも計画を練っています。



本学と同一キャンパス内の市郷学園短期大学との合同の大学祭である第十四回双六祭が、十月二十六日の前夜祭を皮切りに二十七、二十八日の両日に行われました。

近年マンネリになりがちな大学祭を新しい企画により盛り上げ、キャンパス内の活性化を図ろうとの実行委員の意気込みを込めて、今回のテーマが「ひとりはみんな



石田犬山市長が「市民の先生」 話術で学生らをひきこむ



十一月十六日に経済経営・法学・社会科学三研究会共催で、犬山市長石田芳弘氏をお招きして学生向けの講演会が開かれまして。

石田市長は、「市民の先生」というテーマで、型通りの行政にとどまらず、独創的に市政をすすめていることを語られ、会場を埋め尽くした学生も市長の巧みな話術にひきこまれ、最後まで熱心に話を聞いていました。市政をクラシックとジャズに例えて説明されたり、市内のため池をエメラルドグリーン（笑）と形容したり、聴衆を飽きさせない、そして有意義な講演でした。

最後に何人も学生が市長に質問し、市長も学生の名前をメモしながら丁寧に答え、盛況のうちに講演会は終了しました。お忙しい中、本大学で講演していただいた石田市長にあらためてお礼申し上げます。

十一月十六日に経済経営・法学・社会科学三研究会共催で、犬山市長石田芳弘氏をお招きして学生向けの講演会が開かれまして。

2001犬山オープンカレッジ —知る喜びを明日の糧に— が開講される

昨年の十月から十二月にかけて、地域の市民を対象に本学の教員がその専門分野をわかりやすく語る「犬山オープンカレッジ」が計四回開講されました。開講された講座は以下の四講座です。

第一回十月十三日（土）

「作家・老舎を通して見る中国」

法学部 谷川 毅

中国現代文学を代表する作家・老舎を通して、清朝末期から中華民国、そして中華人民共和国へと移り変わる中国の姿を見ました。老舎が好んで描いた二十世紀初頭の古きよき北京の時代と、そして老舎の命を奪うことになる中国建国後中国全土に吹き荒れたプロレタリア文化大革命の嵐の時代を中心にして、激動の時代に生きた一人の作家の生きざまについて論じました。

第二回十月二十八日（日）

「人間学としての経済学」

経済学部 辻本興慰

昔、新石器時代の始め頃、人並みはずれた好奇心と勇氣をもった一人の若者が、猿と人間を分けた或る行動を起こしました。それは、経済の起源となった行動である。そこから「豊かな社会」構築への第一歩が踏み出さ

れました。あの超天才イエス・キリストの教えの中核となったアイデアも、さかのぼれば、彼が起こした行動と一致します。これらを通じて人間の本当の豊かさとは何かを考察しました。

第三回十一月二十四日（土）

「空飛ぶエビフライー日本の食材輸入とアジアの貧困ー」

法学部 四本健二

日本は世界最大の食糧輸入国です。私たちが日頃何気なく食べているエビフライのエビをとってみても、近くは中国、フィリピン、インドネシアといったアジア諸国から遠くは南米チリにいたるまで、年間三十万トンのエビが世界中から輸入されています。では、作り手の側はどうでしょう？日本に食材を輸出することで豊かになっているのでしょうか。この講演では身近な食材を手がかりに、日本とアジアの関係を考えました。

第四回十二月十五日（土）

「テニスの歴史」

市邨学園短期大学 船井廣則

スポーツといえば「する」、あるいは「見て」たのしむものと考えてしまいがちですが、スポーツを「知る」こと、あるいは「学ぶ」ことにもそれらに劣らない楽しみがあります。現代のスポーツの多

くは、今から百数十年程前にヨーロッパ、特にイギリスを中心に成り立ったものなのです。スポーツという文化はそれらよりはるかに長い歴史と多様性を持っています。ここではテニスを題材に、それがどのようにして現在の姿となったか、その歴史をたどってみました。

多治見工業高校生 本学でインターンシップ

岐阜県立多治見工業高等学校の四名の生徒が、二月十三日より三日間、本学でインターンシップを行いました。うち加藤洋司君、加納英典君が図書館で発注・受入、整理、閲覧などの業務を、坂井敏範君、肥田成司君が情報センターで受付、TA、ウイルスチェックプログラム管理などの業務を体験しました。この体験学習を終えて、加藤君は「丁寧に教えていただいた、多様な業務に携わることができ勉強になりました。ここで得たことはこれからの進路選択等には是非活かしたい」と感想を述べています。



ベトナムに次いで中国とも学術協定結ぶ



ベトナム、中国の研究機関と学術交流協定に調印

海外の大学、研究機関との国際交流が活発化しています。昨年三月にはベトナム政府の法学研究機関「国家と法研究所」のダオ・チ・ウック所長の招きで本学の末岡熙章学長らがベトナムを訪問、四月

には赫翼成（ゲオジイ チョン）学長の招きで中国遼寧省瀋陽市の東北大学を訪問し、両者との間で学術交流協定の締結に向けた話し合いを続けてきました。その結果、昨年七月二十一日にはウック所長が（写真左）、本年二月八日には赫学長（写真上）が本学を相次いで訪れ、協定に調印しました。

今回の協定に盛り込まれた交流内容は、学生及び院生の相互交流、教員及び研究者の相互交流、学術資料、刊行物及び学術情報との交換、共同研究事業の推進の四項目を柱としています。



ウック所長の講演に二百人市民ら「ベトナム」に関心



ベトナム「国家と法研究所」と名古屋経済大学との学術交流協定調印を記念し、本学の環太平洋研究所と法学部主催、犬山市後援によるダオ・チ・ウック所長の講演会が七月二十一日、犬山市国際観光センターで開催されました。約二百人の一般市民が集まり、大会議室の仕切りを外して椅子を増やすほどの盛況でした。

モスクワ大学卒、ベトナム人初の法学博士号、ハノイ市裁判所判事という経歴

のウック所長は「ヴェトナムの未来 刷新（ドイモイ）十五年の成果と課題」を課題にして、ベトナムで何が変わり、何が変わっていないか、具体的に数字と情景を織り交ぜながら語りました。「旧ソ連のペレストロイカは上からの指導ですが、ドイモイは国民各層の意志、支持に基づいたものです」

「経済的に発展した半面で工業就業者の技術水準は低く、インフラは未完成。それに都市対農村、平野部対山岳地域の社会的格差は広がりました」。

約一時間三十分、ロシア語による講演は、新美治一法学部長のみくだった通訳と司会でスムーズに流れ、聴衆は理解して聴き取ることができたようです。講演のあと質問が続ぎ、ウック所長は「ベトナムの若い人の日本語熱は高く、ハノイとホーチミンに日本語教育センターがありますが、まだ需要を満たしていません。いくつかの大学も日本語学科を開設しています」

「商談の時は英語がポピュラーですが、同時に必要性から日本語の専門家を急いで育てているところだ」などと答えました。

商用でベトナムへ出かける聴講者の体験談もあり、並々ならぬ関心をつかえる講演会でした。

先輩！こんにちは 岡田憲征さん

名古屋経済大学を卒業し、現在は社会の第一線で活躍中。在学時代の思い出や在学生へのメッセージを語って頂きました。

今も続いている 学生時代の深い交友

大学は、経済学部経営学科の第一期生としての入学でした。ほかに受験したのは体育系の学部ばかり。そのころは、体育の先生などになるつもりかと思っていたんですよ。

昼間は野球、夜はバイトそんな毎日でしたが、友人はすごく多かったです。下宿はまるで体育会系の寮に居るかのようになり、男ばかりでしたね。学食の人とも仲良くなって、夕食用にカレーをもらって帰ったりもしました。授業には出なかつたけれど、教授との交流も結構あった。夜中に下宿まで来て下さるんです。「おう飲みに行くぞ」とね（笑）

店づくりの生きる

あの頃の“経験”

そんなあの頃の付き合いは今もずっと続いていて、私の中でも少なからず役に立っている、といえます。

たとえば、私が経営する店の中に「飯場」という店があるんです。下宿のような造りになっていて、ノスタルジックな空気を大切にしたいのですが、この店は僕の“記憶”“体験”“経験”の中から生まれた店。インターネットなどで手に入れられる“情報”だけでは、決



プロフィール 岡田憲征さん
株式会社かぶらグループ代表取締役
1964年、広島県出身
名古屋経済大学経済学部経営学科第一期卒業
1992年、60席の小規模店舗「囃矢(かぶらや)」を開店。現在16店舗を出店

して生まれ得ない店なんです。「飯場」は僕の原点的な存在の店ですが、みんなと一緒に駆け抜けた学生時代があったからこそ、できた店だと思っんです。

狙って作れ！価値観の違う一生の友

今、学生として勉強している人たちに言いたいこと：それはやっぱり「友だち作つとけよ」というメッセージですね。

友だちは、偶然だけではできない。狙っていかなくや、真剣に関わっていかなくやできないものだと思うんです。周囲を見渡せば「こいつとつきあいたい！」と思える人間が必ずみつかるはず。それもあるべく価値観の違うヤツがいい。そしてつきあいたいと思つたら、集中して付き合い込んでいく。そうやって生んだ深い付き合いだからこそ、延々と続く一生の宝物になると思っんです。（談）

ぜひ経験を インターンシップで学んだこと

人には「人材」「人財」「人罪」の三種類があると本で読みました。その意味を細かく説明はしません。大学教育を受けた者として、「人財」となるべく姿勢は持つべきだと思います。「人財」を目指す者にとってインターンシップ経験は意義あるものになるでしょう。

もちろんアルバイトでも社会経験は得られますが、インターンシップは学生として「勉強」の姿勢で社会人生活に挑むことができるのが最大のメリットです。また、市役所など、通常学生が働くことのできないような環境で経験を積むことができるのも大変貴重なことでしょう。就職活動の一環として自分の適正を探ったり、純粋に研究テーマにつき実態調査を行うなど、インターンシップ参加者それぞれの目的があると思いますが、「人財」たる社会人を目指す者にはどれも魅力的なものでしょう。

私には「人材」「人財」「人罪」の三種類があると本で読みました。その意味を細かく説明はしません。大学教育を受けた者として、「人財」となるべく姿勢は持つべきだと思います。「人財」を目指す者にとってインターンシップ経験は意義あるものになるでしょう。また、「ろくろ」による陶器づくりや他大学の学生との意見交換など、己の人間性を高める経験ができたことも付け加えたい点です。途中、「学生である甘え」が出てしまいましたが、それも社会の厳しさ、自分の考えの甘さを知る良い経験になったのではないのでしょうか。

のなるかと思われま。

私は今回、多治見市役所で二週間のインターンシップを経験しました。短い期間ではありましたが、行政の実態、公務員の仕事内容、また今回のインターンシップにおける研究テーマである多治見市の情報公開制度について予想以上の知識と経験を得ることができたと思います。また、「ろくろ」による陶器づくりや他大学の学生との意見交換など、己の人間性を高める経験ができたことも付け加えたい点です。途中、「学生である甘え」が出てしまいましたが、それも社会の厳しさ、自分の考えの甘さを知る良い経験になったのではないのでしょうか。

名古屋経済大学大学院法学研究科
法学専攻修士課程 山口 貴史

「落ち着いた雰囲気」文部科学省が本学を視察。学生へもインタビュー

大学教育の改善・充実に目的とする文部科学省の实地視察調査が昨年十月十八日、名古屋経済大学で行われました。誕生して満十年の法学部（企業法学科、国際関係法学科）と開設二年目の大学院（法学研究科）が調査対象になりました。

高等教育局大学課から派遣されたのは、視学委員の野村稔氏、磯部力氏と担当官です。末岡熙章学長のあいさつのもと、末岡脩事務局長が本学の施設や設備について、また酒巻俊雄法学研究科長と新美治一法学部長が教育課程について説明しました。

これに関する質疑応答では、大学の名称やイメージの問題から少人数方式のゼミ教育まで幅広いテーマが持ち出されました。そのあと、視学委員による学生インタビューに移り、数人の学生、院生から率直な意見が聴かれたようでした。

さらに一行の学内視察は一時間十分分にわたり、授業の状況、特に総数八十七、担当教員四十三を数えるゼミの実施状況には深い関心を寄せられた様子です。全日程を終えた両視学委員から次のような講評を受けました。

野村視学委員

（全体について）大学の雰囲気（全体について）大学の雰囲気が落ち着いていて、思索する場として大変良好である。図書館は立派な施設で、コンピュータも十分な台数が備えられている。大学院の院生研究室は一人一机で良い。スクールバスの配慮に敬意を表したい。

印象として、大学の配慮が具体的にメッセージとして学生に理解されていない点もある。図書館、コンピュータルームには多くの学生が常時利用している状態が望ましい。一部では学力を考慮せずに講義が進められているようにも見受けられた。また、講義を聞いていない学生、予習をしていない学生がいる。

磯部視学委員

（学生にインタビューをした感想）それぞれ素直で、良い学生である。半面おとなしい感じを受ける。いかに刺激を与え、やる気にさせるか。所在地の地理的事情もあるのが、活性化して欲しい。

授業のカリキュラムについて学生の要望や注文が次年度にフィードバックされることが望ましい。上級生に比べ下級生の学力が下降気味に見えるので、しっかり努力して欲しい。

平成十二年度決算報告

学校法人市邨学園の平成十二年度の決算は去る十三年五月二十九日に評議員会及び理事会で承認されました。

平成十二年度は情報処理関係をはじめ、各設置校の教育研究の施設・設備の充実を推進してきました。学園の資金・消費収支状況は左記のとおりです。

平成12年度 資金収支計算書

平成12年4月1日から平成13年3月31日まで (単位 千円)

資金収入の部		資金支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生生徒等納付金収入	4,827,620	人件費支出	5,435,109
手数料収入	118,549	教育研究経費支出	747,485
寄付金収入	128,629	管理経費支出	297,056
補助金収入	1,387,077	借入金等利息支出	15,769
資産運用収入	125,896	借入金等返済支出	403,138
資産売却収入	-	施設関係支出	126,321
雑収入	376,930	設備関係支出	177,452
借入金等収入	251,399	資産運用支出	669,541
前受金収入	1,494,775	その他支出	504,118
その他の収入	1,279,915	資金支出調整勘定	470,904
資金収入調整勘定	2,413,189	次年度繰越支払資金	13,951,210
前年度繰越支払資金	14,278,699		
資金収入の部 合計	21,856,295	資金支出の部 合計	21,856,295

平成12年度 消費収支計算書

平成12年4月1日から平成13年3月31日まで (単位 千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生生徒等納付金	4,827,620	人件費	5,167,844
授業料	2,601,222	教職員人件費	4,974,692
入学金	558,056	退職金	8,988
施設設備費	899,125	退職給与引当金繰入額	184,164
維持費	602,233	教育研究経費	1,402,811
諸費	166,984	(減価償却額)	655,326
手数料	118,549	管理経費	355,475
寄付金	149,652	(減価償却額)	58,419
一般寄付金	128,629	借入金等利息	15,769
現物寄付金	21,023	資産処分差額	45,626
補助金	1,387,077		
国庫補助金	287,147		
地方公共団体補助金	807,028		
授業料軽減補助金	275,458		
入学納付金補助金	17,444		
資産運用収入	125,896		
資産売却差額	-		
雑収入	135,828		
帰属収入 合計	6,744,622		
基本金組入額 合計	249,240		
消費収入の部 合計	6,495,382	消費支出の部 合計	6,987,525
		当年度消費支出超過額	492,143
		前年度繰越消費収入超過額	7,205,013
		翌年度繰越消費収入超過額	6,712,870

帰属収入は学生生徒納付金及び補助金の減少により前年度比四億八千六百万円の減少となりました。

また、消費支出におきましては前年に比し十一億四千二百百万円の増加となり、当年度消費支出超過額は四億九千二百百万円となります。

平成十三年以降も各設置校の教育研究施設設備の整備充実を推進していくためにも学園の財政状況の健全性及び基盤の強化に向け一層の努力をしております。

今淵祐介、横井幸夫両君(タッチラグビー部) オーストラリア遠征

日本タッチ協会は、二〇〇三年に第五回タッチラグビーワールドカップが日本で開催されるので、日本チームの強化と世界の水準を調べる目的で、日本代表をタッチラグビーの本場であるオーストラリアに派遣しました。

遠征チームは、男子十六名、女子十名の総数二十六名で、本学のタッチラグビー部員である経済学部消費経済学科三年の今淵祐介君と法学部企業法学科二年の横井幸夫君は、日本代表の強化選手に選ばれ、昨年十二月五日(十一日)にオーストラリアNSW州ステイトカップ(州大会)に出場しました。

現地では、各州のチームと試合を重ね、その試合の結果は、一勝四敗一分と振るいませんでしたが、初期の目

的である世界の實力がよく把握できたので、ワールドカップまでに、日本チームのレベルアップに役立つことと思われまふ。

両君は、帰国後次のように語りました。「出かけるまでは全く歯が立たないかと思っていました。一勝出来たし、引き分けた試合も最初はリードしていましたが、後半はスタミナ切れとなりました。今後、より一層練習に励み、持続力をつけたいと思います。やはり、世界の壁は厚かったが、破れない壁ではないと思います。」

ちなみに同部の先輩、大川健太郎君が一九九八年の全日本学生選手権大会において個人MVPに輝き、一九九九年のシドニーワールドカップに出場しました。大川君は、同大会における目覚ましい活躍が認められて、各国から一名選ばれる個人MVPに選ばれ、実質日本ナンバーワンの選手となりました。

伊藤高広君(スキー部)男子スーパー大回転で第一位

本学スキー部は、毎年白馬の岩岳スキー場で行われる中部日本学生スキー選手権大会に今年も出場しました。

今年の大会は、二〇〇二年の一月八日の開会式に続いて九(十一)日の三日間にわたって競技が行われ、本学のスキー部は、男子大回転、女子大回転、男子回転、男子スーパー大回転の各種目に出場し、それぞれ入賞しました。

中でも、男子スーパー大回転に出場した法学部企業法学科四年の伊藤高広君は、第一位の成績でした。以上の結果、本学のスキー部は三部から二部に昇格が決定しました。

部員一同さらに上位を目指して、練習に励もうと決意しました。



岡正志君、中国語スピーチコンテスト愛知県大会で最優秀賞

本学法学部企業法学科四年岡正志君は、平成十三年十月二十日に愛知県三の丸庁舎で実施された、愛知県日本中国友好協会主催の第十九回全日本中国語スピーチコンテスト愛知県大会に出場しました。

同大会は、初級、中級(留學経験三カ月以内)、上級(留學経験三カ月以上)と分かれていますが、留學経験のない岡君は初級朗読の部に出場し、最優秀賞を受賞しました。

岡君は、一、二年次に中国語を履修し、その後も個人的に中国語担当の谷川講師に教えを受け、既に中国語検定四級を取得しています。今回のコンテストのことを知ってからは、本学の中国からの留学生の姜莉さんに二、三度聴いてもらい、悪いところの指摘を受け大会に臨みました。



鈴木 正ほか共著 『転向再論』

(平凡社刊)

本書は、一九五五年から刊行された思想の科学研究会の『共同研究 転向』三巻をふまえた再論である。権力の強制に伴う思想の変



化である転向は、認識の深化や経験の成熟による回心的な変化とはちがう。
共著者の鶴見は、「国民というかたまりに埋めこまれて」というタイトルで知識人と大衆の戦争責任を、私は「転向異説」で事例研究を通じて主として知識人の問題を扱い、いいたは、「八・五相転移における『転向』の両義性」をとりあげている。

中山武憲著

『韓国独占禁止法の研究』

(信山社刊)

本書は、日本学術振興会平成十三年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)交付図書であり、著者が科学研究費・東アジア経済法研究会(旧名称)・日韓比較法文



化研究会)で国際共同研究を行ってきた成果でもある。
本書は、第一編韓国競争政策第二編韓国独占禁止法の沿革、第三編韓国独占禁止法の内容、及び第四編関係法令から成っている。
このように、本書は、独占禁止法を中心とする韓国経済法の総合研究書であり、また、二十世紀における韓国経済法の動向を総括した図書でもある。

石田隆造著

『戦間期日本財政の研究』

(青山社刊)

最近、「失われた十年」という言葉がはやりですが、一九二〇年代の日本もそれに似ていました。そして日本は世界恐慌から戦争への道を



たどりま。本書はこのプロセスにおける財政システムの変化を考察しています。戦前の日本財政については、戸数割や失業救済事業などで優れた実証研究が発表されていますが、財政システムの変化を考察したものは数少ないようです。その意味で、本書は戦前日本財政についてマクロな分析視角を提起したのではないのでしょうか。迷路のような現実への「マップ」として役立てばと思います。

催事報告

人文研シンポ

桃太郎と日本人―在地の思想を問う

平成十三年六月一日、本学七F二教室で、人文科学研究会・幼児教育研究会・比較文化研究会・地域社会研究会の共催による国学院大学教授野村純一氏の公開講演会「桃太郎と日本人―在地の思想を問う」が行われました。講演ではスライドでいろいろな桃太郎絵巻が紹介されたあと、画像の特徴などが詳細に説明されました。東京都新宿区から出た桃太郎絵巻など新資

料の紹介も行われ、最後にヨーロッパの英雄物語の枠組みとの比較も行われました。会場には短期大学保育科の学生や教職員はじめ、オープンカレッジ参加者ほか一般参加者も多く来ましたが、野村氏が日本口承文芸学会の元会長であることから、六月二日、三日に本学で開催された日本口承文芸学会の関係者も多数聴講していました。



新

刊

本学教授らによる新刊図書を、著者に紹介してもらいます。